

# 3 適切に医療機関を受診しましょう

## お子さんの症状を観察しましょう

お子さんの発病に気づいた時は、症状をみながら、必要に応じて医療機関を適切に受診しましょう。  
※「4 表・お子さんの気になる症状の対応と手当て」参照

医師はお子さんの症状を知るために、

- いつ頃から ●どんな症状であるか(機嫌、食欲なども含めて)
- 吐いたときはその特徴(色や臭い) ●便がおかしいときは排便の回数や状態
- 今、何か薬を服用しているか(服用している場合は薬を持参する)

などを確認したうえで、いろいろな病気の可能性などを考えて診察します。

このようなことを簡潔に伝えられるよう、受診する前にメモをとって持参しましょう。また、熱がある場合には熱型グラフも忘れずに作成し、持参しましょう。

## 「かかりつけ医」をもちましょう

「かかりつけ医」は、お子さんの日頃の健康状態や病歴、日常生活の状況を踏まえたうえで、成長や病気について相談に応じてくれます。

お子さんの具合が悪くなったとしても、「かかりつけ医」であれば、的確な診断・治療を受けやすく、また、他の医療機関の受診が必要な場合でも、病状に応じて適切に紹介してくれます。

夜間などにお子さんの具合が急変したときの対応を、日頃から「かかりつけ医」と相談しておくことで安心です。身近な地域でより安心して子育てをしていくためには、気軽に相談できる「かかりつけ医」を持つことが大切です。



ケース:1 診療時間内で受診・連絡ができる場合



できるだけ診療時間内に「かかりつけ医」を受診しましょう。

ケース:2 診療時間外で準夜間や休日などの場合



「台東区準夜間・休日子どもクリニック」を利用しましょう。

ケース:3 深夜など、緊急時にやむを得ず医療機関を利用する場合



小児二次救急医療機関を利用しましょう。※下記一覧参照

## 小児二次救急医療機関

■ 日本大学病院	千代田区神田駿河台 1-6	3293-1711
■ 日本医科大学付属病院	文京区千駄木 1-1-5	3822-2131
■ 順天堂大学医学部附属順天堂医院	文京区本郷 3-1-3	3813-3111
■ 東京大学医学部附属病院	文京区本郷 7-3-1	3815-5411
■ 東京医科歯科大学医学部附属病院	文京区湯島 1-5-45	3813-6111
■ 都立墨東病院	墨田区江東橋 4-23-15	3633-6151
■ 東京女子医科大学東医療センター	荒川区西尾久 2-1-10	3810-1111